同友やまがた

よい会社をつくろう／よい経営者になろう／よい経営環境をつくろう

9
2016
SEPTEMBER

山形県中小企業家同友会
月刊 同友やまがた

中小企業憲章・条例学習会

中小企業振興基本条例で地域と中小企業を元気に
～条例の意義と役割～

2016年度役員研修会

役員としての役割を学び、同友会運動を次につないでいこう

第3回若手農業者との意見交換会

山形同友会！
未来へ向けて、
新たに!!
より地域に必要な存在へ

2016年度スローガン

中小企業憲章・条例学習会

7月26日、地域活性委員会は中小企業憲章・条例学習会を開催しました。今回は「中小企業振興基本条例で地域と中小企業を元気に～条例の意義と役割～」と題し、慶應義塾大学経済学部教授 植田浩史氏を迎え講演。「同友会とは二十数年にわたりお付き合いをしています」という植田先生は、「中小企業振興基本条例とは」「中小企業振興基本条例の意義」「中小企業振興基本条例の最近の状況」「条例を活かす3つの定石　条例・調査・振興会議」の内容で解りやすく説明しました。

○中小企業の元気が地域の元気

冒頭、時代認識として、日本経済や地域経済、中小企業をめぐる環境は大きく変わっており、人口減少、高齢化社会、事業所数減少など、地域経済にとってはマイナス要因が大きい。また、かつてと比べて成長する状況になっていないと問題を浮き彫りにしました。

このことから、地域の状況をしっかり見ていかなくてはならない。現状の変化に即した形で、地域に存在する中小企業に対する有効な施策を作っていかなければならない。具体的には地域の中小企業が元気になり、その中から新しい企業が生まれる。地域の中小企業が増えると雇用が増え地域が元気になっていくと説明。

地域の経済、社会、文化、歴史などに、過去、現在、未来にわたって中小企業が重要な役割を果たしていることを地域全体の共通認識にする。中小企業も今までと同じ仕事をしていたのでは生き残ることは困難、地域の中に新しい経済・新しい価値の創造に協力し、地域経済の安定的な発展、生活の向上への努力を必要としました。

なぜ中小企業振興基本条例（以降「条例」）が求められるか？として、昨今、大企業中心の地域産業おこし、公共事業での産業発展が難しくなっているなどを挙げ、中小企業の地域での雇用、生活、経済循環における役割はこれまでも重要でありこれからも重要。地域の中でお金を回していく上では中小企業は大事な存在である。中小企業が存在し事業活動をすることで地域を豊かにしていく、中小企業が地域にできる最大の貢献は地域に存在し続けること。条例を作り活用している地区では、新しい事業・新しい知恵・新しいスタイルの経営を生み出し、新しい経済（新しい物の流れ・お金の流れ・価値づくり）がされるようになってきた。それによって作られた価値・雇用は従来よりも大きい。元気な中小企業を地域にどれだけ増やすかを課題としました。

○条例化することの意義

条例は中長期的に考える必要がある。その地域や行政が中小企業振興を地域にとって重要な課題であると位置づけ、問題解決に向けて不断の努力、具体的な取り組みを積極的に行うことを宣言することが大切。また、自治体の中小企業振興に対する姿勢を明確にし、首長、担当者などが代わっても自治体の姿勢は変わらないとする姿勢の連続性を重視しました。

植田先生は条例のめざすものとして、①地域が変わる ②中小企業も変わる ③中小企業振興への考え方を変えるの３点を挙げ、理念条例は作っただけでは何も変わらない、条例ができることとは新たな動きのスタートに立つこと。条例を活かすには、条例、振興会議（円卓会議）、調査（地域の実態を把握）を継続的に取り組む必要があると述べました。

○条例は地域を良くするためのスタートライン

その後北海道帯広市や愛媛県東温市の事例を紹介し、最後に「地域課題の改善が難しい時代の中で、条例は新しい視点で地域の中小企業の支援を地域が覚悟を決めて協働によって宣言するものである。中小企業も既存の延長では対応できないので、常に自助努力と自己研鑽を重ねる。条例で提起されている中小企業の方向性とは、中小企業自身が環境変化に対する事業革新や社会的役割を自覚して、積極的に『現代版三方良し』に向かい変わっていかなければならない。そうすることで中小企業が変わり良くなっていき、地域も良くなっていく。地域に住んでいる人たちも、地域社会の中で日々生活を営んでいける。そういう地域にしていこうとするスタートラインに立つのが、この条例です」とまとめました。

2016年度役員研修会

役員としての役割を学び、同友会運動を次につないでいこう

7月29日に山形ビッグウィングで2016年度役員研修会が行われ、24名が参加しました。講師には中同協副会長でもある北海道同友会代表理事 守和彦氏(㈱ダテハキ 取締役会長)を迎え、「私と同友会～役をこなして自らを磨く～」「北海道同友会で進めてきた『憲章』から『条例』へ」という2回の講義をとおして自分づくり・会社づくり・地域づくりの実践をお話しいただき、同友会の役員の役割を学びました。

講義の冒頭、守氏は入会して間もなく同友会に相談して自社の課題を解決した経験から、「同友会は地域も世代も超えたあらゆる業種の人が集まっているので問題解決の糸口がつかめる」と述べました。

会社の札幌への移転、共同求人活動での新卒採用、中国オフィスの開設では、同友会が役立ったことに触れ、「同友会がなければ今の会社はなかった」と振り返り、「全国には4万5千名の仲間がいて、経営課題が明らかになれば4万5千ページの辞書から、解決の糸口が見つかる。大いに活用しよう」と呼びかけました。

その上で同友会の役員とは「入って良かった」「続けて良かった」「会社がよくなった」を体験して、地域に広げる役目を担っているとし、辞書の1ページを増やす。役員は役をこなして自らを磨くことによって新たな自分の能力を発見することができると強調しました。

そして、自社の経営基盤を強くする自分づくり、元気な同友会づくり、可能性を広げる地域づくりについて説明し、同友会の立ち位置が大きく変わった今、先輩が創ってくれたことに感謝し、多くの財産を生かせる最も高い位置にいることを自覚し、同友会運動を引き継ぎ発展させ、次につないでいこうと語りました。

続いての講義では、中小企業の経営者の所得・事業所数の減少・地方格差により中小企業にとって困難な時代が続いている情勢に触れ、日本の企業の99.7%が中小企業、労働人口の70%が中小企業で働いていることから中小企業がよくなければ支えられないと指摘。中小企業振興条例の必要性を説明しました。

そして、同友会には会社を良くしたくて入会するので、地域のためと言っても腑に落ちない。「入会して同友会三つの目的を実践する→地域と自社を見つめ直す→地域資源と自社の課題を発見し連携して仕事をつくる→行政・他団体と連携し中小企業振興条例をつくる→施策を自社に活用し実績ができる→意見をもとに施策が充実→活用企業がレベルアップし自社の経営基盤が強化する」という条例制定運動によって地域と中小企業が発展するサイクルを示し、「地域貢献の第一歩は自社の経営基盤強化」と語りました。

さらに、北海道同友会では中小企業憲章が閣議決定された2008年に「中小企業振興基本条例をすべての地方自治体に」「会員のいない市町村には新しい会員を増やそう」と宣言。条例制定運動の広がりと同時に会員数も伸びてきたことを紹介しました。

最後に中小企業憲章の提起から条例制定運動で得たものとして「高い目標を持つことの大切さ」「時の利をわがものに～事前勉強を怠らない」「行政・他団体と関係が深まり、施策への関心が高まる」「同友会の存在価値と地域への責任が増大」「会員の結束が図られ、会員増強に」を挙げ、「持続可能な地域社会をつくるために中小企業振興基本条例を制定しよう」と力強く述べました。

第３回若手農業者との意見交換会

農業にも経営を！

食･農部会は、8月2日に「2016食･農部会 第３回若手農業者との意見交換会 ～おらだも経営してみっか！～指針が農業を変える‼」を開催しました。この意見交換会は、「農業者の本当の悩みを直接聞きたい」を目的に、特に後継者にあたる若手農業者を対象に昨年から行われています。第1回では「農業は利益が出にくく、後を継がせたくないし継ぎたくない」という問題が浮き彫りになりました。そこから食･農部会では、「農業者と一緒に経営を学び、利益の出せる体質をつくる」を趣旨に取り組んでいる事業です。

今回は支部例会形式で行われ、社長に就任したばかりのさとう農園㈱ 代表取締役社長 佐藤卓弥氏が報告しました。佐藤社長は前食･農部会長でもあり、経営指針をつくる会修了生でもあることから、「農業にも経営指針を活用し、元気に、豊かになってもらいたい」と熱い思いをかたりました。

食糧危機は架空の話ではない

3代目となる佐藤社長は2007年に入社、ところが幹部社員が次から次と退社し、人手不足により毎日追われるように仕事をこなしていました。そんな中でも経営指針をつくる会を受講し、「何の為に経営をするのか」を深く追求しました。

さとう農園㈱の主力は里芋の卸と皮をむいた状態の「洗い里芋」の販売でしたが、自社のやるべきことを明確にした結果、新しい取り組みとして「差別化･付加価値をつける･楽しい農業」の思いから「うずまき畑」や里芋を使ったスイーツ開発などの6次化に取り組みます。そこに至った経緯として、これまでも様々な取り組みや生産にも取り組んできた中で、「農業は不作でも豊作でも手元に残るお金は同じ、生産者が販売者より利益率が低いのが現状。これでは農業者はやっている意味がない」との強い思いがありました。

世界的食糧危機が懸念される中、実際に日本でも天災による食糧危機は実際に起きており、また輸入食材も値段が上がってきている現実がある。だからこそ日本の農業者にやりがいや働きがいをもって取り組んでほしい、そしてきちんと利益を出し後継者に引き継いでいってほしいと熱く語りました。

中小企業と農業の架け橋

「社長には『労働型社長』と『経営型社長』があり、農業者はほとんど労働型社長ではないでしょうか？」と問題提起しました。経営指針を作り、自分の立ち位置を知り、売れる農作物を作っていく必要がある。その為に食･農部会が中小企業と農業の架け橋になり、業種の垣根を越えていきたいと抱負を語りました。

最後に、後継者やTPPなど農業の問題が山積する中、持続するための仕組みづくりが重要。「生きる」を根源とした理念を大切にし、「山形の里芋を日本一にする」というビジョンで締めくくりました。

その後「５年後の幸せをどう描いていますか？」のテーマでグループ討論が行われ、５年後もお客様や家族、携わる人が美味しい物を食べて笑顔になっていてほしい。だから農業も経営指針をつくり、実践していくことが大事であるなどの討論が行われました。

山大連携授業のまとめ

山形県中小企業家同友会（地域活性委員会担当）、山形大学、株式会社きらやか銀行、山形県信用金庫協会加盟４金庫の４者連携協力協定による2016年度山形大学基盤教育科目「ホンモノの地域貢献と地域活性とはなにかー山形を元気にする企業家に学ぶー」は、５月７日にスタートし８月６日をもって全６回の授業を終了しました（６回の他にも各支部例会や各行事にも参加）。今年度は、正規受講者11名と過去この授業で単位取得したＯＢ、同友会会員や金融機関からの参加で、毎回約20名が参加しました。受講生はやや少なめでしたが、米沢女子短期大学から初めて参加があり、受講生が置賜支部例会にも初めて参加しました。

事業目的を「山形同友会が山形大学そして金融機関と連携し、地域の若者の人材育成に関わり、地域社会に貢献し、経営環境の改善に資する」とし、「中小企業家が真剣勝負で議論する機会に参加することで、『机上の議論』ではない『本物の議論』を経験し、社会に出ても自分自身を高める大切さを実感する」「中小企業経営者の前向きで、やりがいを持って働くという生き方に触れ、大企業、公務員志望等だけの単純なキャリア感ではない、自分自身のキャリア感を考える良質な機会とする」を期待される効果として、今年で7年目となる取り組みとなりました。

山形大学内で行われた授業では、通常の支部例会と同じく報告そしてグループ討論を行い、学生がグループ長や発表者になり、多様な角度から学び合いました。また、企業訪問では教室を飛び出し、経営者が日々奮闘する生の現場を、目で見て、肌で感じる貴重な機会となりました。

【第1回　5月7日　福島教授による趣旨説明】

第１回は、福島教授による趣旨説明とグループ討論を行いました。討論テーマが「無人島に一つだけ道具を持っていくとすれば？」や「回復見込みのない乳幼児の生命維持装置を外す判断を誰がするのか？」といった、大人でもはっとするようなテーマに、活発な討論が繰り広げられました。

【第2回　6月4日　㈲アドプランニング越前屋　越前屋社長の報告】

第２回は㈲アドプランニング越前屋社長が報告。様々な転機を迎える中で、越前屋社長と社員を支えたのは経営指針でした。「何のために経営をするのか？」の問いに、自分自身の理念をもつ大切さを学びました。

【第3回　7月16日　㈲長門屋　笹林社長の報告】

第３回は ㈲長門屋 笹林社長の報告。東京で主婦として幸せに暮らす中、父そして夫が病気を患い、急に100年以上続く会社の経営者に。経営指針を作る会を受講し、「何を提供しているのか？」の質問に仕事の本質を考えさせられた笹林社長。商品のその先にあるものを理解し、自分の置かれた場所を受け入れ、自分が主役になる人生を歩む素晴らしさを知る機会をいただきました。

【第4回　7月17日　㈱高田自動車学校（岩手県陸前高田市）の企業訪問】

第４回は岩手県陸前高田市の㈱高田自動車学校に訪問。そこでは田村社長と初年度にも報告いただいた、㈲橋勝商店橋詰社長もかけつけ報告。東日本大震災から何を学び、そして自社が地域における社会的責任を実践する姿を目の当たりにしました。地域を元気にするために、「小さな一流企業になる」「常に考える」「考え方×熱意×能力＝仕事の結果」などのヒントをいただき、「自分の意思で生きていく」・「自分たちの手でことを起こす」の大切さを学びました。

【第5回　7月23日　㈲大山ボデーの企業訪問】

第５回は会員企業の㈲大山ボデー訪問でした。先に会社を見学、学生たちは実際に車の修理されるところに興味津々。その後佐藤専務が報告。二男でありながら、人と関われる仕事がしたいと入社。そこで待っていたものは理想とはかけ離れた現実でした。社員の「こごの会社ってや～」の言葉に、社員を幸せにして二度とこの言葉を使わせないと決意し奮闘が始まります。それは会社の文化を変えることにもつながり、「親・社員・客の期待に応える」を実践。仕事が楽しいと語る佐藤専務に、社員に本気で向き合う経営者の姿を感じ取れました。

【第6回　8月6日　㈲鏡畳店　鏡社長の報告】

第６回は、(有)鏡畳店 鏡社長が報告。自ら畳産業は衰退産業という鏡社長。い草農家がなくなると畳はなくなるとのことから「畳は農産物である」として、業界の「違和感」に対し本物の良さを追求し挑戦し続けます。また、新しい市場づくりをめざした国際的な取り組みに、「考えること」「行動すること」「挑戦し続けること」を学びました。

学生たちは当初、経営者の本音の話に対し理解するのも難しかったようで、緊張している様子もみられました。しかし回数を重ねてくると、「社長の思い」「経営理念の大切さ」をしっかりと受け止め、理解し、グループ討論も大変盛り上がっていました。地域の中小企業経営者が多くのことを考え取り組んでいる姿に感動し、自分の将来と照らし合わせ、「働くこととはどういうことか」「自分はどんな仕事をしたいのか」などを深めました。

女性部例会で率直に語り合い学び合う

女性部会では今年度「活き生きと働ける会社をつくろう」をスローガンとして、女性経営者・経営者夫人・女性幹部社員が交流を深めながら学び合っています。

何を変えるの？

7月12日の第２回女性部会例会では、㈱Ｈａｉｒ ｗｉｔｈ Ｗａｔｅｒ 代表取締役 赤塚治美氏と㈱菓子工房ＣＯＣＯイズミヤ 代表取締役 庄司 薫氏による「第19回女性経営者全国交流会に参加して～見えてきた、私たちの役割 変わらなきゃ！～」の報告会を開催しました。

はじめに二人から熱い感動の報告があり、その後「いま会社で自分の果たすべき役割は何ですか？」「何をどのように変えなくてはならないのか？」をテーマに、２グループに分かれて討論しました。

日々の経営と家事・育児に追われ生きがいを考えている余裕がなく葛藤していること、社員によって職務への温度差がある、モチベーション維持の難しさ等の問題が出されました。解決策としては、「1年後、3年後、10年後…社長・社員が夢を持ち、共有することで将来像を明確にする」「しくみを作るだけではなく、共有の大切さ」「社員の話を聞く時間を１ヶ月に１度はつくり、本音を語りあえる場を設ける」などが挙げられました。

現状に満足せず自分を常に変える努力、そして会社、社員、顧客、山形に対して母性愛のような広い心と視野で、今まで以上に“愛”持って接していく事の重要性を再認識しました。

会議はどうなっている？

8月23日の第３回女性部例会では、㈱城北電気工事 伊藤　綾氏が「働きがい・生きがいのある会社をめざして～組織づくりと人材育成を考える～」をテーマに報告。

伊藤氏は月１回の社内会議が始まった経緯、会議の重要性・必要性と社員への意識改革から自発的行動、全員参加型会議へむけての取り組み、そして委員会の活動状況を報告しました。

引き続き行われたグループ討論では、自社の会議がどうなっているかが、話し合われました。「会議は上層部が行うものと思っている社員」「売上報告会になっている」「以前は行われていたが社長が多忙で出席できず消滅した」など、現状の課題が出されました。㈱城北電気工事で行っている「会議に臨む準備・資料作成や問題提起を一人一人が行う」を取り入れ、「不満や問題を経営者だけで解決しようとせず、社員と一緒に解決していく」の意識付け、同友会行事への社員の参加促進、聴く力・話し合う事の重要性、感動を体感してもらうなど、各企業に応じた対応策が話し合われました。

最後に、伊藤氏の「社員全員が前のめりになって話合える会議が目標、夢です」の言葉に全員の気持ちが一緒になった瞬間でした。

あなたも女性部例会に参加してみませんか？

次回　女性部例会

2016年9月28日（水）13:30～　場所：同友会事務局

「第13回経営研究集会」開催のごあんない

2016年11月22日（火）
午後1時30分～午後8時30分

場所：ホテルメトロポリタン山形
山形市香澄町1-1-1　☎023-628-1111

第1部	基調講演	13：30～15：25
	講師：徳武産業㈱ 代表取締役会長 十河孝男（そごう たかお）氏（香川同友会）	
第2部	分科会・グループ討論	15：35～19：00
第3部	懇親会	19：10～20：45

9月例会のご案内

・どの支部の例会にも参加できます。 ・月に一度は参加しましょう。

山形支部

仕事づくりで450人の会社に

2016.9.23（金）18:30～21:00

場所：山形ビッグウィング 4階 研修室
山形市平久保100　☎023-635-3100

報告者：㈱セロン東北 専務取締役 森 幸二氏

大手企業から4名が従業員30名の会社へ転職。人手不足の時代で自ら業務を行いながら営業。仕事はハードで安給料、でもやりがいがあったと言います。そのモチベーションを武器に機械警備の拡販に主力を傾注し、米沢営業所を開設。そして、今では県内一円に拠点を構築。さらに、その拠点を生かし、ビルメンテナンス、保育事業とお客様の要望から新規事業を展開しています。大手同業他社との激しい競争にさらされながらどう差別化を図り発展してきたのか。営業戦略と背景にある人材育成について、森専務より報告していただきます。市場縮小の時代に必見です。お誘い合わせのうえ、ご参加ください。

●グループ討論テーマ　「お客さんが増えていますか？」

寒河江支部

秋田の真価探求！
地域貢献団体の大会から始まった地域活性化への挑戦。

2016.9.20(火) 19:00～21:00

場所：寒河江市技術交流プラザ ２Ｆ
寒河江市中央工業団地153-1　☎0237-86-1991

報告者：㈱なまはげ 代表取締役 菊地孝一氏

寒河江支部９月例会は、銀座や仙台に「なまはげ」という飲食店を展開する、㈱なまはげ 代表取締役 菊地孝一氏を招いて講演いただきます。本業はホテルを経営する菊地社長、青年会議所などの地域貢献活動や様々な出会いから、秋田を全国にPRする会社"秋田活性化㈱"を立ち上げます。その会社では「秋田を元気にしたい」の思いを胸に、「食材は秋田から直接仕入れる」「なまはげの実演」など、秋田をコンセプトとした様々な趣向をこらした取り組みをしています。「目指すは、"東京のなまはげ"で秋田を知り、実際に秋田にきてもらうこと」と語る菊地社長に、地域活性のヒントを学び合います。

さくらんぼ支部

決めたことをやらない会社からの脱却
～社員と共に課題解決～

2016.9.27（火）18:30～

場所：タントクルセンター 栄養指導室
東根市中央1-5-1　☎0237-43-1155

報告者：㈲笹木製作所 代表取締役 笹木浩二氏

メーカーの製造部門の海外移転が進んで売上がダウンする中、現場リーダーの社員が退職。さらに次のリーダーも退職。この繰り返しに悩んでいた時、同友会に入会。

社員共育委員会で学び、社員の資質ではなく、自分に問題があったことに気づきます。そして、二年前に経営指針書を作成。実践に取り組む過程で、社員さんの労働環境が悪化し、問題が起こります。仕組みづくりの必要性を痛感した笹木氏は試行錯誤でＰＤＣＡを回しながら課題の解決に取り組みます。不良品・残業時間などが大幅に改善され、お客様も広がってきています。

理念の「幸せづくりが出来る会社」をめざして社員さんと一緒にチャレンジする笹木氏の実践報告をもとに、組織づくりを考え合います。

置賜支部

「お荷物部署」から「付加価値を生み出す会社」に

2016.9.16（金）18:30～

場所：伝国の杜
米沢市丸の内1-2-1　☎0238-26-8000

報告者：㈱フロット 取締役 五十嵐久仁子氏

デザイナーに憧れてデザインの仕事に打ち込んできた。バブル後、デジタル化と不況で業界は急降下。やりがい集団だった仙台デザイン部署には非効率というレッテルが・・・。「夜中まで頑張っているのに」とショックを受けたが、組織として機能する大切さに気づく。そして、モチベーションを下げずに効率化を図るため、現状を数字で把握することからスタート。その後、デザイン部門は子会社として独立することになる。不安を感じるメンバーに「会社づくりに直接参画できる楽しさ」を伝え、経営課題を共有。さらに組織力を発揮するための委員会活動に取り組んできた五十嵐さんの報告をもとに、生産性と組織づくりのバランスを考え合います。

●グループ討論テーマ　「あなたの会社のお荷物は何ですか？」

庄内支部

地域で活かす「未来知新」経営

2016.9.28（水）18:30～

場所：鶴岡市総合保健福祉センター「にこ♥ふる」
鶴岡市泉町5-30　☎0235-25-2731

報告者：㈱ＡＲＲＯＷＳ 代表取締役 金野隆行氏

自動車の買取・販売・整備業を山形市と鶴岡市で経営する金野社長。起業から五年間は経営状況もよい状態で推移していましたが、全国的な新車販売の低迷や若者のクルマ離れ等で状況は激変。しかしそのような状況化の中でも立ち止まってはならないと自分を奮い立たせ、今の若者に対してアクションを起こすのでは無く、これから先5年後10年後に免許を取得する子供達へ何をするかを模索します。「物に触り、物を造る」「クルマの良さを伝えるイベント」などに取り組み、これからの若者の意識を変えることに奮闘している金野社長の報告です。ゲストさんお誘い合わせのうえ、是非ご参加ください。

新庄最上支部

「私がつくった経営指針」
～経営指針をつくることって何？～

2016.9.29(木)18:30～

場所：新庄市民プラザ
新庄市大手町1-60　☎0233-22-4200

報告者：厨ダイニング 代表 佐藤奈緒氏

新庄最上９月例会は、支部初の「経営指針をつくる会」受講者、厨ダイニング 代表 佐藤奈緒氏の報告となります。飲食店２店舗を経営する佐藤社長は、日々の経営の中で「自分の存在意義」や「何のために経営するのか」に疑問をもち受講を決意しました。半年に及ぶ講義と助言者の言葉から得た気づきを、「如何に実践に活かしていくかが課題」と語る佐藤社長。"地元地域の発展へ貢献できる№１外食企業"をめざして、経営指針を羅針盤として新たな船出をした佐藤社長に学び合います。

第4回理事会報告

◆日時：2016年８月10日（水）午後３時～午後５時　◆会場：山形県産業創造支援センター　◆議長：越前屋副代表理事
◆出席者（敬称略）：川合勝芳、西塔秀幸、菅原茂秋、後藤智樹、越前屋忍、菊池幸生、阿部和人、小林敏郎、玉津弘之、白鳥明美、阿部秀顕、伊藤誠、若木義寛、庄司薫、武内賢二、赤塚治美、小川大輔、高橋明、事務局矢作聖子、髙橋徹、後藤駿

■開会挨拶

西塔代表理事より「休み前の理事会に参加いただきありがとうございます。中小企業家しんぶんに『同友会運動発展のためにから学ぶ』が掲載されています。よく読んで経営、会活動に活かしてください。役員研修会で守さんも言っていましたが、自分の経営に役立つように自分のために活動することが大事です」と述べました。

■経営体験報告

報告者：㈲グッピー園　代表取締役　高橋明氏（2010年入会）　座長：庄司薫氏

＊次回報告者（敬称略）

月	報告者	座　長
９月	斉加義三氏	阿部秀顕氏
１０月	武内賢二氏	

■報告事項

１）中同協第48回定時総会　7/14～15　大阪　４名参加

・ノーベル賞を受賞した山中氏の話では日本の研究所や大学は予算が少なく、非正規の職員が多いという課題を抱えているとのこと。参加した情勢の分科会では独立型中小企業（自分で値段が決められる）は少ないが、今後のためには独立型中小企業をめざすことが大事になってくるという報告があった。（西塔代表理事）

・経営指針の分科会では経営指針の実践が進まないのは労働環境の改善に着眼されていない、社員教育の予算がないという経営指針づくりになっていないか。社員が喜べない経営指針では難しい。自分のための経営指針になっていないかを問いかける必要がある。（菅原代表理事）

２）中同協第１回幹事会　7/15　大阪

議案についての意見の審議と行事の確認が行われた。その後、「中同協幹事としての役割と覚悟」について鋤柄会長より「代表理事が毎年交代すると何のための活動かが見えにくくなる。本質的活動のために避けていただきたい」「愛知同友会の理事会では自社の経営課題をＢＳ、ＰＬ、経営指針も出して議論している。そういうことをすると深みが増すのではないか」「同友会の活動に対して意見をどんどん出して欲しい」「同友会運動を実践する体現者になってもらいたい」「次世代の組織作りへ責任を持ち、同友会だけではなく地域でも率先して取り組んでもらいたい」と問題提起があった。（菅原代表理事）

３）2016年度全国事務局員研修基礎コース　7/20～22　愛知

研修に参加し、事務局員として働くことのやりがいや今後の方向性と目標が定められた。会員さん、役員さんと一緒に同友会運動を行うことで地域貢献ができ、自らのやりがいにもつながっていく。松井専務幹事は40年で４千社の会員を訪問したそうです。まずは「会員さんを知る」ことから始めて検索機能となれるように、会員企業訪問を行っていきたいと思います。（後藤事務局員）

４）幹部社員研修　第１講　7/20

●61名参加（内幹部社員39名、東京同友会４名）

事前シートで「経営指針の実現」「人を活かす経営」の短期・中期・長期の課題を設定し参加する仕組だったが、課題設定した方とそうでない参加者の差があった。また、短期・中期・長期の課題があぶり出されても、中長期に着手できない企業が多い。今の自分の仕事を部下にブレイクダウンしてからという考え方だった。今後、課題をあぶり出した時に、どうやって着手していくのかを考えていくことが大きな課題の一つとなった。（阿部理事）

５）中小企業憲章・条例学習会　7/26

●29名参加（内東根市１名、川西町２名、高畠町１名）

慶応大学の植田浩史教授より中小企業振興条例とは何か、条例を活用し地域活性化をした事例等を話していただいた。中小企業振興条例には中小企業の振興に自治体は責務があり、中小企業経営者にも活用するという責務が同時にある。自治体が地域の中小企業の役割を重視し、その振興を行政の柱としていくことを明確にするために制定された理念条例であることが根幹となる。（越前屋副代表理事）

６）２０１６年度７月度月次決算報告　（矢作事務局長）

■承認事項（入・退会承認）　２名入会　６名退会　８/１０現在４３０名

■討議事項

議題１：役員研修会のまとめ

１）参加者数　　２４名

２）講義・グループ討論の成果について

小川理事が「守氏の講義は役員をしている役割や意義を改めて考える機会となり、腑に落ちるお話だった。条例も堅苦しいイメージがあったが、講義にはこれから中小企業経営者として勉強しなければならないと思う点が多々あった」とまとめました。

参加した理事からは「みんなが良かったと思える後味の良さをリーダーとして心掛けたい」「同友会には課題解決のための４万５千ページの辞書があるという考え方が印象的だった」といったことが挙げられました。

３）次回への課題

理事や役員を引き受けた以上は貫き通すべきで参加者を増やす事が課題として挙がりました。

議題２：第13回経営研究集会について

伊藤理事より実行委員会体制と開催要項が提案され、下記のことが決まりました。

１）委員会体制について

委員長：斎藤源氏　　副委員長：伊藤誠氏、佐藤啓氏、鈴木敬尚氏

２）開催要項

●日時：11月22日（火）13：30～　●会場：ホテルメトロポリタン山形

３）基調講演

講師：十河孝男氏　徳武産業㈱　代表取締役会長（香川同友会）

４）分科会

・企業づくり（経営指針・社員教育・共同求人の取り組み）

報告者：㈱木村工業 代表取締役 木村晃一氏（東京同友会・経営労働委員長）

・エネルギーシフト

・中小企業向けITソリューション（一般社団法人山形県情報産業協会担当）

議題３：組織委員会より

菅原代表理事が、「経営課題に則した委員会活動を会員の方に知っていただき、会を知らずに退会する人をなくすためのパンフレット作成は、これから各委員会・支部に原稿を依頼する」「新会員オリエンテーションは、庄内支部と置賜支部で開催する予定」「組織委員会では退会状況を確認し、増強の意義について話し合った」ことを報告し、何もしなければ地域は疲弊していくこと、同友会運動は変えていくので、自信を持って入会を勧めていただきたい、そして理事会でも増強の意義を討議することを提案しました。

■その他

１）今後の行事予定

2016組織強化・広報・情報化全国交流会	8月25日(木)～26日(金)　東京大田区産業プラザPIO	菅原代表理事出席
北海道東北ブロック支部長・地区会長交流会	8月３０日(火)～３１日(水)　盛岡	西塔・菅原代表理事・越前屋副代表理事・阿部(秀)・武内理事・事務局矢作出席
中同協・女性部連絡会	9月6日(火)　東京	赤塚部会長出席
中同協・経営労働委員会	9月8日(木)～9日(金)　東京	小川副委員長出席
中同協・社員教育委員会、共同求人委員会合同会議	9月8日(木)～9日(金)　東京	阿部委員長・玉津委員長出席
第４４回青年経営者全国交流会	9月15日(木)～16日(金)　石川県金沢市	菅原代表理事・髙橋事務局次長出席
幹部社員研修　第２講	9月21日(水)18:00　山形ビッグウィング	東京同友会参加予定
北海道東北ブロック事務局長会議	10月21日(金)～22日(土)　函館	
中同協・政策委員会、憲章・条例推進本部合同会議	11月9日(水)～10日(木)　東京	
中同協・第２回幹事会	11月11日(金)　東京	
第5回人を生かす経営全国交流会	11月17日(木)～18日(金)　千葉	阿部委員長・佐藤(啓)委員出席
中同協・人を生かす経営4委員会合同委員会	11月18日(金)　千葉	阿部委員長・佐藤(啓)委員出席
全国事務局長会議	12月8日(木)～9日(金)	
中同協・第３回幹事会	1月13日(金)～14日(土)	

２）第５回理事会日程

●日時：９月１４日（水）午後３時～午後５時

●会場：山形ビッグウィング

１０月１２日（水）15：00～17：00	山形ビッグウィング
１１月　９日（水）15：00～17：00	山形県産業創造支援センター
１２月１４日（水）15：00～17：00	山形県産業創造支援センター

■閉会挨拶（菅原代表理事）

新会員紹介

◎伊藤　繁美氏
有限会社伊藤木工
代表取締役
家具・木製品製造
山形支部

◎八木澤　陽（あきら）氏
米沢法律事務所　所長
弁護士業務
置賜支部

会員名変更

●西道精工㈱　取締役工場長　奥山浩氏
→代表取締役　奥山浩哉氏（さくらんぼ支部）

社名変更

●㈱F.Dサポートヒグマ寒河江営業所明るい代行車
→㈱明るい代行車
代表取締役　熊沢儀行氏（寒河江支部）

役職変更

●㈱山形チャレンジ工業
代表取締役専務　佐藤宏氏
→代表取締役社長（新庄最上支部）

●㈱サンベンディング福島米沢営業所
取締役所長　黒澤修氏
→常務取締役営業本部長（置賜支部）

同友やまがた9月号（2016年9月1日発行/通巻282号）　*From Editor*

〝知り合い、学び合い、援け合い〟
山形県中小企業家同友会
〒990-2461　山形市南館三丁目26-26 スタジオ・アヴァン 102号
TEL（023）645－5500　FAX（023）645－5583
URL:http://yamagata.doyu.jp/　E-mail:info@yamagata-doyu.jp